

# UNFPA アジア太平洋地域フィールド便り



山田悦子

人道支援オフィサー

フェリス女学院大学卒業後、東京大学大学院(人間の安全保障プログラム)及びブラッドフォード大学大学院(英国)で修士号(MA in Conflict, Security and Development)を取得。その後、外務省(国際協力局国別開発協力第三課)、青年海外協力隊(カメルーン、コミュニティ開発)、国連PKO/国連中央アフリカ多面的統合安定化ミッションMINUSCA(政務及び危機管理)に勤務。2024年4月より現職。

2025年 No3.

私は、2022年3月より日本政府(外務省)のジュニア・プロフェッショナル・オフィサー(JPO)制度を通じて、国連人口基金(UNFPA: United Nations Population Fund)バングラデシュ事務所でプログラムアナリストとして勤務している山田悦子です。このたび、JPO3年目を迎え、UNFPAアジア太平洋地域事務所(APRO)に異動し、人道支援ユニットで勤務することとなりました。

今回は、UNFPAが行う人道支援について、具体的にどのような活動を行っているのかをご紹介します。

## UNFPAによる人道支援: キーワード: 尊厳、ディグニティ、DIGNITY

UNFPAの活動理念は、「すべての妊娠が望まれ、すべての出産が安全に行われ、すべての若者の可能性が満たされる世界を実現すること」です。そのための長期目標として3つのゼロ 1) 妊娠・出産による妊産婦の死亡 2) ジェンダーに基づく暴力(GBV)や児童婚などの有害な慣習 3) 家族計画サービスへのニーズが満たされない状況のゼロを掲げています。日本においても、出産は命がけの経験です。また、ジェンダーに基づく暴力も依然として発生しています。一方で、有事(災害、政変及び戦争)が起こった場合でも出産は続き、ジェンダーに基づく暴力はさらに深刻化する傾向があります。少しでも安全に出産できる環境を整え、ジェンダーに基づく暴力を軽減することは、UNFPAが人道支援において特に重視している取り組みです。

## 尊厳キット: Dignity Kit

例えば、管轄地域の国で自然災害が発生し、政府からUNFPAに支援要請があった場合、多くの人道支援活動とともに、ジェンダーに基づく暴力(GBV)の防止やGBVサバイバーへの支援情報の提供、妊婦健診の実施、そしてディグニティ・キットの配布を行います。ディグニティ・キットとは、基本的な衛生環境を維持し、人間としての尊厳(ディグニティ)を守るために必要な日用品が入ったキットのことです。一般的には、生理用品、下着、歯ブラシ、洗剤などが含まれています。ただし、単にキットを配布するだけではなく、以下のような工夫を加えています。キットの中に、病院や妊婦健診、性暴力相談窓口の連絡先が記載されたカードを同封する。

キット配布前に講習会を開催し、妊婦健診の重要性や、パートナー間の暴力が許されない行為であることなど、必要な知識や情報を提供する。また、対象者のニーズを考慮し、キットの内容を調整します。例えば、目が不自由な方には、同封するリーフレット(病院や性暴力を受けた場合の支援医療機関の情報を含む)に点字を追加します。さらに、トランスジェンダーの方には要望に応じて髭剃り用の剃刀を追加配布するなど、個々の状況に応じた対応を行っています。ディグニティ・キットの中身 USA for UNFPA



## いち早く効果的に届けるための試み：CVA (CASH VOUCHER ASSISTANCE)

このように、キット＝支援物資をいち早く対象地域に届けることは、これまでUNFPAが人道支援で伝統的に行ってきた活動のひとつです。最近では、物資の配布に加え、さらに迅速に支援を届けるという目的のため、モバイルマネーやクーポンを活用したCVA(現金・バウチャー支援)の実施も進められています。

例えば、災害が発生した国の状況を調査し、地元のスーパーや雑貨店が営業を続け、携帯の電波も使える場合には、物資を直接配布するのではなく、モバイルマネーを配布し、その金額によって現地の店舗から必要な商品を購入するという取り組みが行われています。使用方法を裨益者自身に委ねることもありますが、場合によっては、配布する金額の使用目的を生理用品などの購入に指定しながら、交通費を含めた妊婦健診費用を給付するケースもあります。このように、災害前後の市場調査やニーズ調査を基に、最適な現金やバウチャーの配布方法を検討し、災害ごとに支援のデザインを柔軟に変更しています。

CVAの利用は、ドナーからの賛同を得るとともに、現地の声も反映され、ますます増加しています。私がバングラデシュ事務所勤務していた際、現場で物資を配布していたスタッフから「物資を受け取れるのはありがたいが、国連機関ごとに受け取り場所が異なるため不便である」、「受け取り場所に行くための道路が整備されていない」、「交通費が高額で負担になる」、「受け取り場所への道中でハラスメントに遭うのが怖い」といった現地女性の声を何度も耳にしました。

CVAでは、スマートフォンや携帯電話にモバイルマネーを配布することで、裨益者が自分の都合の良い時間に近隣のお店で必要な商品、たとえば生理用品や石鹸、食料などを買うことが可能です。このように、より柔軟で安全な支援を提供できるのがCVAの特徴です。

ただし、現金配布には盗難のリスクに伴う受給者の安全性の問題もあるため、リスクを最小限に抑えるための対策が必要です。そのため、災害発生前の計画段階で、ニーズ調査、市場調査、関係者からの聞き取りにより裨益者の状況を把握するなど、繰り返し協議し、最適な支援方法を設計します。

そのため、キットの配布やモバイルマネーを用いた支援を行った後は、毎回必ず利用者への聞き取り調査を実施し、その結果を次の支援に向けた改善点として記録します。この情報を基に、キットの内容やモバイルマネーの支援方法を適宜見直し、常により良い支援の提供を目指して人道支援の内容をアップデートしています。

